

食べて  
魅力の虜に

# 東京で「たるみずにハマる夕べ」

ジレンマからの脱却

「鹿児島たるみず観光物産展」は、垂水市が昨年度から実施している「食」をテーマにした販路拡大のためのPR事業です。第1回目から「東京」での開催にこだわってきました。その理由はただ一つ。東京を起点とした都市圏における垂水食の認知度向上のためです。地元には、素晴らしい生産者と食材がありながら、都市圏の消費者には、なかなか認知されていないという実情があります。行政や商社が開催する商談会においても、多くの商品に埋もれてしまい、注目されないなどのジレンマを抱えてきました。この取組は、そんなジレンマを解消するための攻めの取組と言えます。



◎会場で提供した料理の食材は、本市のふるさと納税返礼品としても使用されている肉や魚、焼酎などを使用。

## 食べたら最後 垂水の虜に

第2回となった今回は、6月18日（土）、大田区の「地中海市場・レシャット」を会場として、商社やレストラン関係者、料理研究家、ブローガー、マスコミなど、関係者約60人を招待し開催いたしました。前回開催と異なる点は、その開催スタイルです。前回は、市内10事業者が自社の製品をPRするブースを設け、食材を試食するスタイルで行いました。開催後は、参加事業者が大手物流企業との商談がまとまるなど、一定の成果を得ることができましたが、更なる販路拡大には、垂水食の素晴らしさをダイレクトに伝える手法が必要であると考えました。それを踏まえ、今回は、垂水の食材を料理として振る舞い、体感する会食スタイルとしました。

## 笑顔の数が違う

「やはり、『食べる』という体験は、その人に与える影響が大きいと感じました」そう話すのは、今回の取組を担当した大副主幹。「なぜそう思うかと言うと、笑顔の数が全く違うからです。今回、料理を食していただくこともですが、会場の雰囲気づくりや、おもてなしを表すディナーマットなども用意し、より印象深い夜となるように心がけました。今回の目的である販路拡大につながることに強い手応えを感じています」果たして、担当者を感じた手応えは、現実のものとなるか。その結末は、次のページへと続きます。

担当した人  
水産商工観光課  
大副主幹  
大副 俊一

